

受賞者の概要

1 農業経営の部

(1) 審査経過

今年度の農業経営の部には各地から9点の応募があった。受賞された方々は先見性のある経営戦略の構築、生産技術向上や規模拡大、コスト削減等の努力により、安定した高い所得を確保し、販売方法等についても様々な創意工夫を重ねており、本県の農業振興に大きく貢献し、農業者の模範となる経営が多く見られた。

審査は「経営、生産技術、販売」の評価を基本に、地域貢献や環境保全、安全・安心といった観点を加えて行い、書類審査及び現地審査を経て、各賞を選出した。

(2) 受賞者の概要

● 大賞（農林水産大臣賞・栃木県知事賞）

有限会社 卵明舎（宇都宮市）

・経営の特色

自家製特別配合飼料を使用したブランド鶏卵の生産を行う。衛生管理を徹底し、冬季は飼料に唐辛子を添加して風邪を予防するなど、鶏の健康管理に気を配っている。

販売面の取り組みに特に力を入れており、自社直売所を中心とした独自製作パッケージでの販売や、市内農業者と連携した洋菓子製造販売店の設立による6次産業化等において顕著な成果が認められる。

スイーツと組み合わせたギフト用商品を展開しており、新たな活用方法を提案することで鶏卵の消費拡大に繋げている。直売所では、若年層の顧客獲得を目標にミニ動物園の設置や軽食の販売を行い、親子での来店誘導や滞在時間の延長を図る工夫が見られた。

さらに、宇都宮市内や東京都内の百貨店・レストランへ卸売を行うことで、ブランド鶏卵のPRに役立っている。販売先では料理や菓子に使用され、高い評価を得ている。

・受賞のポイント

既に多様な販売による成果を収める中、新たな販路の開拓や新商品の開発に努め、更なる経営向上が期待される。また、養鶏業の担い手確保に努めており、後継者や雇用者の育成に力を入れている点が特に高く評価され、大賞に選出された。



寺内昌文代表取締役社長



鶏卵や6次化製品を販売する直売所

● 栃木県知事賞

株式会社 加藤農園（矢板市）

・ 経営の特色

高品質のりんご生産を目指し、樹上完熟栽培に取り組む。現在の代表取締役の就農後 12 年間で栽培面積を 80%拡大してきた。食味を重視し、青果販売に向かない生産物も無駄にしないよう、6次産業化に力を入れている。また、観光農園、直売の強化のため、10 品種のりんごを栽培し販売期間の長期化を図っている。

・ 受賞のポイント

計画的な栽培面積の増加と、10 種類以上の独自商品を製造販売している 6次産業化の取組みが高く評価された。



加藤博樹代表取締役



10 種類以上の独自商品

● 栃木県知事賞

農事組合法人 上松山（さくら市）

・ 経営の特色

地域水田農業の維持発展を目指して、農地や農作業を請け負い水稲・麦類・大豆等の土地利用型作物を栽培し、高所得を実現している。大型高性能農機や ICT 技術の導入により作業の効率化を図り、法人として取り組む土地利用型作物と、構成員が個人で取り組む園芸品目とを両立する。

・ 受賞のポイント

構成員全員が 30 歳代と世代交代が進んでおり、地域農地の担い手として今後の活躍も期待される点が高く評価された。



構成員全員 30 歳代



稲刈りの様子

● 栃木県知事賞

株式会社 TanakaFarm 誠（栃木市）

・ 経営の特色

水稲と二条大麦の種子生産に取り組む一方、農地や農作業の受け皿として地域農業に貢献することを目標に米麦栽培を行う。畦畔等耕作地周辺も丁寧に管理することで地域の信頼を得ており、農地集積や畦畔除去によるほ場の大区画化を進めるなど、更なる作業効率向上を図っている。

・ 受賞のポイント

部会上位となる面積での種子生産に加え、従業員を含めたオペレーター技術向上を図っている点が高く評価された。



田中誠代表取締役(右)と弟



耕うん作業の様子

2 農村活性化の部

(1) 審査経過

今年度の農村活性化の部には各地から8点の応募があった。他の組織と連携し、地域資源や人材をいかした地域活性化に取り組み、地域の魅力発信による交流人口の増大に寄与するなど、本県の農村活性化に大きく貢献し、他地域の模範となる組織・団体が多く見られた。

審査は「地域づくりの担い手の確保、地域農林水産業への寄与、住みよい農村環境の保全・向上」の評価を基本に、地域づくりのための自主的な努力・創意工夫や合意形成・計画性、推進体制の整備・運営といった観点を加えて行い、書類審査及び現地審査を経て、各賞を選出した。

(2) 受賞者の概要

● 大賞（関東農政局長賞・栃木県知事賞）

NPO 法人 げんきフォーラム桑（小山市）

・活動の特色

桑やえごまの栽培・加工販売を活動の柱の一つとし、地域住民による共同作業や6次産業化商品開発等、地域活性化に取り組んでいる。

地域住民の賛同と信頼を得られる誰もが参加しやすい組織を目指しNPO法人を設立した。現在約100名の会員により構成され、その30%以上が女性である。農業生産から6次産業化までを手掛ける農業部会や、地域高齢者を支援する地域助け隊を組織し、活動は多岐にわたる。

農業部会は地元農地の保全に力を入れており、耕作者がいなくなり放棄された農地を借り受け、主要な収益源であるえごまに加え、にんにくやたまねぎ等の新規品目を栽培している。

他の組織との連携も活発で、地元農業高校と共同で商品開発を行うほか、商工会議所・自治会等とイベント運営等での協力を通じ連携を深め、地域の課題解決に努めている。また、地区内の市民交流センターの指定管理業務受託、散策道のあるため池周辺の維持管理委託なども請け負い、地域交流拠点の活性化に貢献している。

・受賞のポイント

新規栽培品目の導入や新商品開発、農福連携を目指した取組などが見られ、農業分野での更なる規模拡大が期待される。活動全般における各会員の得意分野を把握しており、無理のない範囲で高齢者の雇用を創出することで地域に活力を与えている点が特に高く評価された。



ふるさとさくらまつり



桑中学校との協働（桑の植栽）

● 栃木県知事賞

株式会社 ワカヤマファーム（宇都宮市）

・活動の特色

「竹林」という地域資源を、6次産業化、農業体験の受入れや観光農業に活用し、地域への交流人口増大による知名度向上・活性化を図っている。市内学生団体と連携したイベント開催、地域の加工業者と協力した6次産業化商品開発、地域のグリーン・ツーリズム活動組織と連携した活動をしている。

・受賞のポイント

個としてではなく、宇都宮市全体の交流人口増加を目的に、地域にとどまらない幅広い活動を展開している点が高く評価された。



マルシェへの参加



竹灯りのトンネル

● 栃木県知事賞

里山ガールズ（益子町）

・活動の特色

道の駅ましこの開業を機に立ち上がった女性のみで構成される組織である。道の駅を拠点に、農産物の生産・加工販売を中心とした活動をしている。町や他の地域団体と連携し、農業体験や調理実習の受入れを行っている。

・受賞のポイント

伝統料理の継承や交流人口の増加に寄与している点が高く評価された。



花ずし作り



ラーニングパッケージ

● 栃木県知事賞

須賀川ふるさとづくり協議会（大田原市）

・活動の特色

地域住民の交流会から発展した新そばまつり・新茶まつりを開催する。二つのまつりを活動の軸に、構成員各自で生産するそば・茶葉を活用し、地域に人を呼び込む活動をしている。

・受賞のポイント

廃校となった小学校の保存会等、他の地域団体と連携し、地域を活性化している点が高く評価された。



集合写真



体育館での直売風景

3 芽吹き力賞

(1) 審査経過

今年度初開催の芽吹き力賞には各地から7点の応募があり、自身の経験に基づく理念を持ち、独自性の高い農業に取り組む若手農業者が多く見られた。こだわりのある農産物の生産にとどまらず、食育活動や収穫体験を通じ消費者と農業の架け橋となり、地域住民を巻き込んだ活動を主導するなど、今後の発展が期待される。

審査は「活動の動機と着想、課題解決に向けた創意工夫」の評価を基本に、推進体制や活動の成果、今後の発展性といった観点を加えて行い、書類審査及び現地審査を経て、各賞を選出した。

(2) 受賞者の概要

● 栃木県知事賞

福田 大樹 氏・福田 茜 氏（鹿沼市）

・取組の特色

ふるさとの田畑を守りつつ、地域住民間のつながりをより豊かにするため、無農薬・無化学肥料で小麦と露地野菜を栽培しながらパン屋やカフェの経営に取り組んでいる。

・受賞のポイント

地域の交流拠点化を目指す店舗経営や、有機栽培を志す新規就農のモデルケースとして他の就農希望者の模範となっている点が高く評価された。



福田大樹氏・茜氏



カフェのランチプレート

● 栃木県知事賞

株式会社 澳原いちご農園（矢板市）

・取組の特色

完熟朝摘みを特徴とするスカイベリー栽培に取り組む。系統出荷と直接販売、ギフト配送をバランス良く組合せ、自社 HP での通信販売やふるさと納税返礼品への採用、マルシェ出店などを行う。

・受賞のポイント

多様な販路を展開しつつ、消費者の手元に高品質で新鮮ないちごを届けることを最重要視している点が高く評価された。



澳原大介代表取締役



小学校での食育活動

● 栃木県知事賞

渋江 和彦 氏・渋江 陽子 氏（那須町）

・取組の特色

トマトを中心に、取引先のレストラン等の要望に応じた少量多品目の野菜栽培に取り組む。ホテルやカフェに出向いての対面販売や、SNS での情報発信により、生産者の顔の見える販売を重視しており、減農薬栽培やプラスチック資材の使用削減等、環境に配慮した農業を行う。

・受賞のポイント

地域住民や移住者によるマルシェを主催するなど、更なる活躍が期待される点が高く評価された。



渋江和彦氏・陽子氏



トマトを中心に野菜を栽培